

方法

- 動物 : マウス C57BL/6J ♂
年齢 : 神経切除時週齢 9週齢
術式 : イソフルラン麻酔下で左坐骨神経切除し、皮膚を縫合した。Sham Opeは左坐骨神経を露出させ、そのまま皮膚を縫合した。右側は正常足として無処置とした。神経切除後7日目に三種混合麻酔下で左右の腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋を摘出し、湿重量を測定した。
- 群構成 : 左坐骨神経切除群(DN群)3例
Sham Ope群(Sham群) 3例
- データ処理 : 左肢の腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋の湿重量をDN群、Sham群で比較、また右の筋肉を100%とした時の左の筋肉の割合を委縮率として算出した。いずれもt検定を用いて有意差検定を実施した。図は平均値±標準誤差で表している。

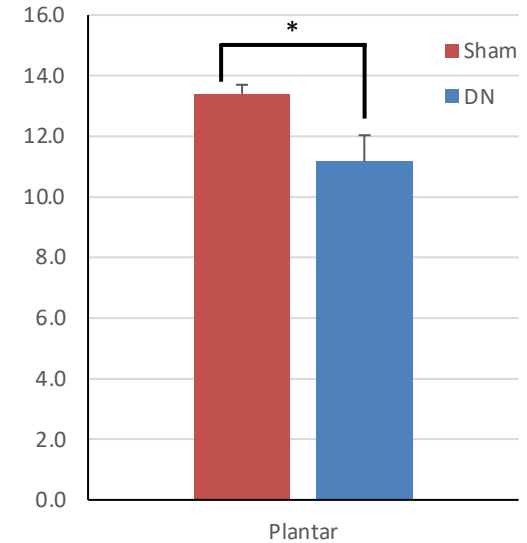
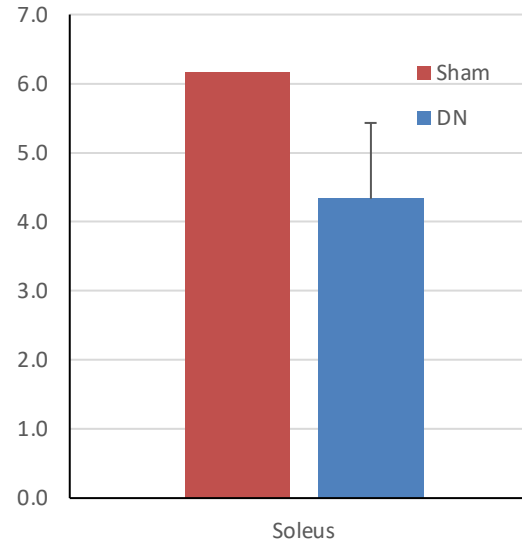
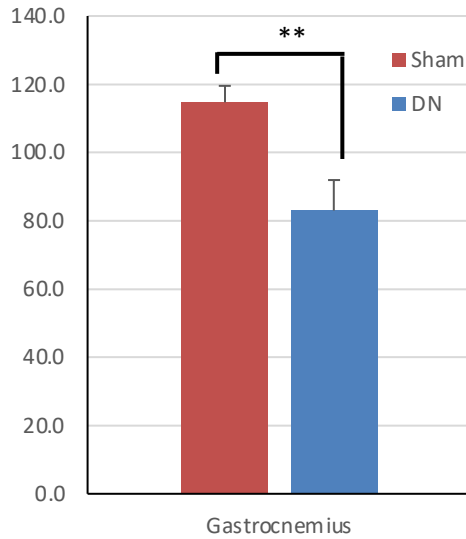
結果

結果の図は次スライドに添付。湿重量はいずれの筋肉でも委縮が認められ、腓腹筋、足底筋では有意な委縮であった。ヒラメ筋では統計学的な有意差は認められなかった。委縮率ではいずれの筋肉でも有意な委縮が認められた。

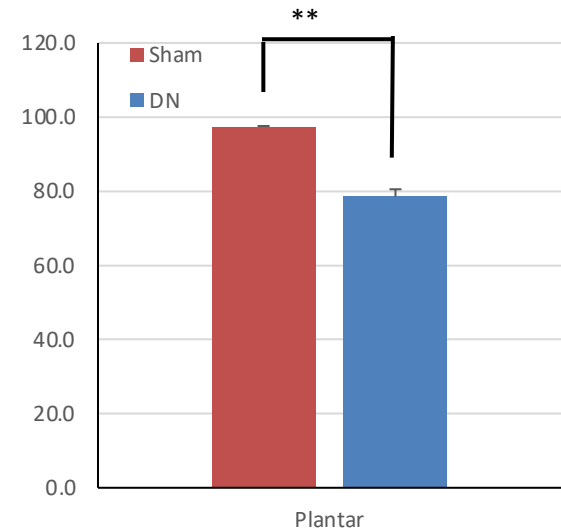
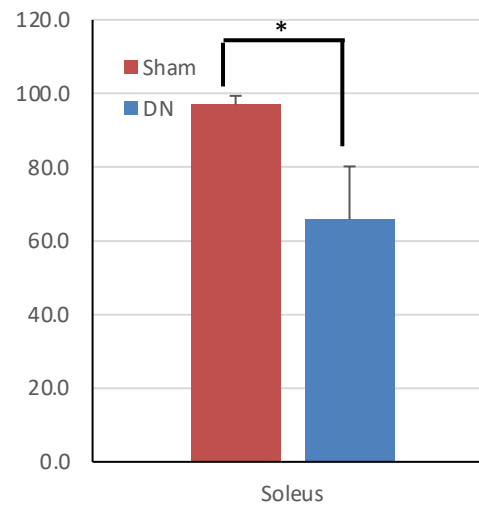
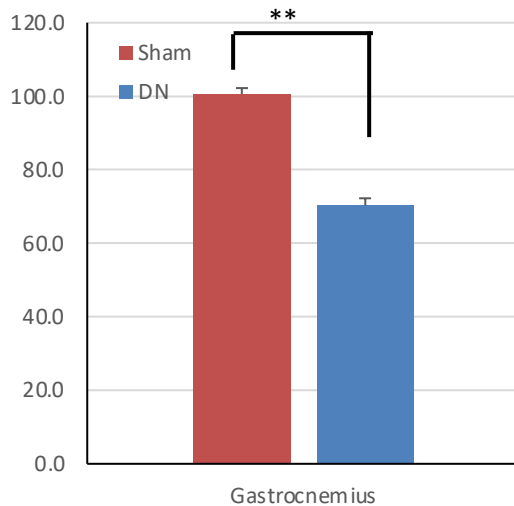
考察

坐骨神経切除により7日後には筋肉の有意な萎縮を起こすことが示され、本試験方法により筋委縮に対する薬物等の効果を確認することが可能である。

湿重量



委縮率



本実験に限らず, in vivo動物実験に関する問い合わせは下記まで.
マウス・ラット～イヌ・ブタ・ヒツジまで

ハマグチラボプラス株式会社

茨木ラボ:大阪府茨木市西豊川町8-13

彩都ラボ:大阪府茨木市彩都あかね20番

電話:072-665-4621(代表)

mail:contact@hama-lab.com